

『核 (05/01)』

新たに生物の核を手にした
人の行き先は
物理の核と同じように
明日への不安を積み重ねるのか

自分達をもち大地まで
破壊するような水爆を持って
人は未来への道を
暗々たる心で歩いている

核融合反応は夢と化し
核分裂を造ってしまつて
自分達の惑星まで爆発させる
一瞬に滅亡を持ってしまった

人類はどうとう
体細胞のクローンに成功した

誰がクローン人間を
阻止出来るだろうか

『臓器 (05/02)』

生き延びたければ
動物を殺しても良いと言うのか
その臓器を獲っても良いのか
生き延びたければ
人を殺して臓器を獲っても良いのか
生き延びたければ

それは可能ですよと
科学が囁く
それは動物よりも人の方が
はるかに良いと
科学が社会へささやく
科学が可能ですよと魅了する

してくださいと欲するのは
いつも人間のほうだ
科学の囁きに抗しがたく
人の欲求は尊重され権利となって
臓器欲しさに人間を殺してしまう
生き延びたければ

身体細胞からクローン人間を造り
人は新たな人間を産み出す
誰がクローン人間を
阻止出来るだろうか

クローン人間を奴隷にして
人は王侯貴族の生活が出来るのだ
Eldrick Tiger Woods の体細胞
Stefanie Maria Graf の体細胞

二人の体細胞を買った資産家は
産まれいずる我が稚児を
ゴルフ界テニス界の制覇を………

新たに生物の核を手にした
人類の行き先は
物理の核と同じように
明日への不安を積み重ねるのか

『科学 (05/04)』

宇宙の中で
この惑星を人間は
地球と自らを公称した
生物が生まれるこの惑星を
人間が住む惑星として
創り変えている

人の起源は
この惑星なのか
ミトコンドリアの
二十万年前を遡ることが無い
この事実を
現人類はどう説明するのか

地球は確かに
六百万年前に人類を生んだ
アフリカのaに
そこからa人は大陸へと
拡散を繰り返し
そして亡びていった

私たちがその継承でないことは
肝に銘じておくべきである
私たちは今から二十万年前
忽然と出現したのである
この地球という惑星に
生物が誕生しているこの惑星に

銀河太陽系地球惑星は
四十八億年かけて戦争し
酸素側が勝利を収め
この惑星は宇宙に閉じて
多くの生命を爆発的に
産みだし歩み

まぎれもなく人間は
この地球上に生きている
多くの仲間を殺しながら生きている
歴史から人類は何を学んだのだ
群れて生きる醜さを
人間は動物から抜け出せないでいる
いったい地球継続史そのものからの
発生していないのか人間は

だったらこの星で好きなことが出来る
地球生物を抹殺しても
人間は他の星で住むことが出来る
今それを人類はやろうとしている

『臓器 (1) (05/06)』

心臓が臓器であるように
脳もまた臓器なのです
心臓移植のように
脳の移植も可能になるでしょう

類人類に人の脳を移植したら
どうなるのでしょうか
科学が囁いているのです
おこなってみなさいと

ギリシャ神話のように
半野獣がこの世に誕生する
上半身は人下半身は四つ足
興行は成功間違いないでしょう

人の脳と顔を持った鳥人が
空を飛ぶ日が来るでしょう
物理の核と生物の核は
この世をパラダイスにする

人の脳も臓器なのです
科学が解明した理論式を
人の世界で再現すると
水爆にも半野獣人間にも

『孤独 (05/14)』

この大地に
初めて人が立ったとき
宇宙は何を感じたろうか
歓迎したのであるうか
無視したのであるうか
それとも
悲しみに満ちたのか

宇宙に意志はあるのだろうか
人のそれのように

人はなぜ誕生したのか
人が消滅する時期が
来るのだろうか
宇宙も消える時が有るのか
人が宇宙を越える日が
有るといふのか
人もまた孤独の寂しき

『光 (05/19)』

超高層建築物が
人の生活に必要なのか
海拔300メートルの建築物が
人に重要な物だろうか

文明が封建時代の時
人の意識は
お金のための労働を卑下した

文明が資本主義の時代
人の価値観は
お金をどれだけ稼ぐかになった

アイヌは
この大地は神の物であり
人は誰もが住めると

和人が住み始め
利益のため鯉を一網打尽にし
鯉を捕り尽くした

書を持たぬ原住民が
書によって行動する和人に
その人口を殺され続けられた

緑が有る限り
インデアンは住めると
白人と承認印書にした

朝にブルトザーで
緑を根こそぎ
白人は倒し始め

夕方に緑はなくなった
インデアンは出て行け
承認印書にそう捺印しているから

What is these?

西洋文明の恐ろしさである
打ち建てている
不夜城の摩天楼も

私は自問しながら道を眺めていた
私は寂しく感じながら道を眺めていた
私は日射を浴びながら
私はセンチメンタルになった

お金を求めて
富を寡占するために
個人も組織も血眼になっている
過去の歴史を殺して
車を走らせて
今日も不夜城は謳歌している

宇宙から見ると
美しいらしい
過去にしてきた行為は美しいらしい

また一人森から現れて
スタンドでガソリンを入れ
店の主人と一言話して去った
また一人現れ森の中へと入って行く

知らない過去を受けて
今日も赤ん坊が産まれる
嫌々泣き声をあげて

『A GAS (05/19)』

もうかれこれ二時間にもなるが
森の道からこちらへくる人
森の中へと入っていく人
それらをじっと見続けている

『謳歌 (05/19)』

生き延びるために
生命を殺すのは
許されるとしても

生き延びるために
生命を殺しても許されるが
利益のためは行為ではない

『雨 (05/19)』

Why, why, the wood is dark?
And here is light?
Do you seeing that is these?

利益を得るために
人を動物を森を
殺すのは行為ではない

降る雨がやみ
破れた雨雲から
日光が差し込む
濡れた木の葉が輝き

濡れた畑野が希望に萌える

今は眠っている

帰らない日々が
現れる五月の日々

五月の雨は
恵みの幸か
ツバメは低く飛び
雀が陽の中で囀り
水溜まりが残る

あなたの時もそうよと
母が言った

私の子供の時が
閃光に照らされる

陽を浴びた雨雲は
萬の色に染まり
陽を浴びた木々は
緑を燃やし
大地は歓喜の合唱

私は無言で母をにらんだ

蒼い光の中に
私が跳び遊んでいる

『心 (05/25)』

泣き止んだ赤子が
すやすやと眠っている

揺れ動く心へ
私の手を握って妻が微笑んでいる
この子貴方似ね

不思議に母への憎しみも
溶けて行く
赤子を見ながら泣いている

『五月 (05/26)』

産まれ出ることに
激しく泣いた子も

稲妻が空を走る
五月の日々
雨の向こうに

『心 (05/30)』

善意と悪魔の二つを持っている
人間の人格を現す心

多面性に苛まされる人の良心
それ故に人は善意の人にもなり
それ故に人は悪魔にもなる

ヒトは他者を犠牲にして
自己の欲求を実現する
利己心的な自己が満足される

欲望がそれによって満足されても
他人に与えた不愉快さに
人は誰もが自責する

自責の念は
二度としてはならないと
後悔と恥の道德感情の感性であろう

良心とはこの道德感情であろうか
人を未来へと導いていくのは
この各人の良心しかない

人が生き延びたければ
良心に従わなければ生きられない
故にどんな人でも呵責に苦しむ

自分の欲望実現のため
他人に与えた不愉快さを
人は感性として受け取る

生き延びたければ
人はこの呵責に苦しむ
その良心が未来へと人を活かせる

『夜行列車 (05/30)』
人間というレールの上を
夜行列車が走って行く

レールの上を
汽笛を響かせて
夜行列車が驀進している

生きる美しさを
一駅一駅に降ろしながら
孤独のさびしさを降ろしながら

ヒトというレールの上を
夜行列車が走っている

レールの上を
未来へと宇宙の中を
夜行列車が驀進している

煌めく星々の中を
未来へ未来へと
終着駅のないレールの上を

End all 1997/05